

C型肝炎合併関節リウマチにインフリキシマブが安全かつ有効であった1例

黒田 毅 佐藤弘恵 中枝武司 和田麻子 村上修一 中野正明* 成田一衛

Key words: Rheumatoid arthritis, Hepatitis C, Biologics

はじめに

関節リウマチ (RA) 治療に関して、欧州リウマチ学会の勧告では、メトトレキサート (MTX) はアンカードラッグとして位置づけられ、抗リウマチ薬 (DMARDs) の第一選択薬となっている。また、MTXや他のDMARDsに十分に反応しない場合は生物学的製剤の使用を開始するべきであり、生物学的製剤の選択はTNF阻害薬で開始しMTXと併用すべきであるとされている¹⁾。日本リウマチ学会のRAに対するTNF阻害療法施行ガイドラインでは、C型肝炎ウイルス感染者に対しては一定の見解は得られていないが、陽性者は慎重な経過観察を行なうことが望ましいとされている。これらはRAの治療戦略として広く受け入れられているが、その一方で、肝炎をはじめとする合併症を有する症例に対する治療戦略に関しては、未だにいくつかの問題点ある。我々は、C型肝炎合併RA症例に対してインフリキシマブを使用し、安全かつ有効であった1例を経験したので報告する。

症 例

症例：75歳、女性。

主訴：生物学的製剤によるRAの治療。

家族歴：特記事項なし。

既往歴：平成2年、胆石で胆嚢摘出術施行。平成7年、肝機能障害で入院し、HCV抗体陽性を指摘された。輸血歴なし。

現病歴：平成5年10月 (59歳時) 左足関節痛出現し近医で加療された。この時RFは陰性であった。平成8年人間ドックでRF陽性とCRP2.2mg/dLを指摘され、多関節痛、多関節腫脹も出現していたため、当院整形外科を受診した。RAと診断され、オーラノフィンより治療を開始され、ブシラミンに変更された。これらの治療により、疾患活動性はある程度抑えられていたが、平成20年9月活動性が上昇したため、メトトレキサート (MTX) 4mg/週を開始され、平成21年1月から6mg/週まで増量された。その後一時軽快したが、同年12月より増悪したため、同月生物学的製剤導入目的に当科に紹介された。

入院時現症：身長155.0cm、体重62.0kg、体温は36.6℃。血圧120/86mmHg、脈拍69/分 整。意識清明。貧血・黄疸なし。口腔は乾燥所見なし。体表リンパ節は触知せず。心音異常なし。肺、呼吸音正常、ラ音聴取せず。腹部、平坦。

正中に手術痕有り。肝、脾、腎触知せず。下腿浮腫無し。神経学的異常なし。運動麻痺無し。腱反射正常。四肢：著明な手関節、膝関節の熱感、腫脹あり。両手指に軽度の変形を認めた。朝のこわばりなし。

表1 検査成績

【検血】		【検尿】	
WBC	9730 /mm ³	SG	1.008
RBC	395 x10 ⁴ /mm ³	U-pH	7.5
Hb	9.2 g/dl	U-prot.	(-)
Ht	31.2 %	U-sug.	(-)
Plt	34.1 x10 ⁴ /mm ³	U-keto.	(-)
		U-urobili.	(+/-)
ESR	96 mm/h	【沈渣】	
		U-WBC	5-9/ hpf
		U-Epi.	1-4/ hpf
【生化学】		【感染症】	
TP	8.1 g/dl	STS	(-)
Alb	3.2 g/dl	TPLA	(-)
A/G	0.65	β-Dグルカン	<1.2 pg/ml
BUN	18 mg/dl	HBs抗原(-)	
Cre	0.54 mg/dl	HBs抗体(-)	
UA	5.9 mg/dl	HCV抗体(+)	
Na	140 mEq/l	HCV-TaqMan	検出せず
K	4.3 mEq/l		
Cl	104 mEq/l	【その他】	
Ca	8.6 mg/dl	ツ反	陰性
GOT	29 IU/l	KL-6	212 U/ml
GPT	24 IU/l	クリオグロブリン	(-)
LDH	196 IU/l	HbA1c	5.5 %
ALP	407 IU/l	eGFR	72 ml/min
ChE	343 IU/l	CEA	2.0 ng/ml
γ-GTP	56 IU/l	CA19-9	7 U/ml
TB	0.4 mg/dl		
T-Chol	137 mg/dl		
【血清】		ヒアルロン酸	144.3 ng/ml
CRP	2.5 mg/dl	プロコラーゲン	
RF	1246.6 IU/ml	Ⅲ型ヘプテド	0.9 U/ml
IgG	1884 mg/dl	Ⅳ型コラーゲン	128 ng/ml
IgA	654 mg/dl		
IgM	101 mg/dl		
【抗体検査】			
AMA	(-)		
ASMA	(-)		
抗M2抗体	(-)		

新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科分野 (第二内科), *新潟大学医学部保健学科

EFFICACY AND SAFETY OF BIOLOGICS IN A PATIENT WITH RHEUMATOID ARTHRITIS AND HEPATITIS C

TAKESHI KURODA et al: Div. of Clin. Nephrol. and Rheumatol., Niigata Univ. Graduate School of Med. Dent. Sci.

